

いつの間にか公共交通がなくなっていた

# そうならないために、今乗ろう！

市民のみなさんの移動手段としての「公共交通」は、日常生活を営む上で、「あって当たり前」のものとなっています。しかしながら、少子高齢化、人口減少社会の進展、そして新型コロナウイルスのまん延による緊急事態宣言の発令などにより、今、公共交通は減便・廃止の危機に陥っています。

5年後・10年後の私たちの未来に、こうした「当たり前」のものを残すためにも、みなさんで公共交通の役割や必要性について、考えてみませんか。

## 公共交通の現状

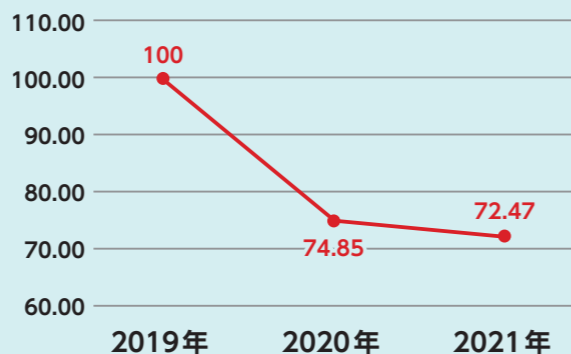
### 緊急事態宣言の発令により 利用者数が大きく減少

交野市は、市内に電車の駅を6つ有し、それらの駅を拠点としてバスやタクシーが走るまちです。そのため、本市の公共交通における人口カバー率（公共交通サービス圏域内の総人口に対する割合）は約94.5%と高く、市民のみなさんの通勤や通学、通院、買い物などといった移動手段として、欠かせないものとなっています。

しかしながら、2020年4月の新型コロナウイルスのまん延に端を発した緊急事態宣言の発令に伴い、多くの方が外出の機会を失ったことで、バスやタクシーなどの公共交通の利用者数は大きく減少しましたが、公共交通事業者は感染対策だけでなく、運行内容の工夫などにより、私たちの移動手段の確保に努めてこられました。

### 交野市内におけるバス利用人数の推移

2019年のICカード利用人数（年間）を100とした場合の割合の推移を示したものです。利用範囲は交野市内の乗降いずれかを含むものとする。



### 市内路線バスの現状 (いずれも2021年4月1日現在)

- 交野市内の路線(系統)数: **39**系統
- 交野市内の停留所数: **60**か所
- 交野営業所所属のバス運転者数: 約 **100**人



## 事業者インタビュー

星田交通株式会社 代表取締役 **のべ やすし** さん **苅邊 康史** さん

新型コロナウイルスの流行が始まった2年前の4・5月の夜間の利用は、ほぼ皆無に近く、前年同月比の売り上げが50%にまで落ち込みました。昨年末からようやく回復傾向にありますが、それでも夜間の利用は少ないので、比較的利用の多い日中に対応できるよう勤務シフトの変更等を行っています。また、配車システムをデジタル化することで、より効率的にお客さまへの配車が可能となり、乗務員の働き方改革だけでなくお客さまの利便性向上に努めています。乗務員には出勤時、アルコールおよび体温チェックのほかパルスオキシメーターを導入し体調を管理していますので、これまで乗務員から1人も陽性者を出していません。今後、酸化チタンによる車内抗菌コーティングを行うことで、感染対策をさらに徹底し、安全・安心に運行を続けていきます。



## 利用者の声



南星台地区 区長 **なかにし たかきよ** さん **中西 隆清** さん

南星台地区は星田駅に向かう方が大半で、行きは下り坂なので徒歩で向かわれ、帰りは公共交通を利用する方が多い。こうした利用者のことを考えると、少なくともバスの維持は不可欠で、私たち地域もその努力をしなければなりません。

京阪バス株式会社 経営企画室課長 **かんばら たかお** さん **神原 孝夫** さん

生活様式の変化等により移動を伴う行動が減少しているため、地域の足を担うバス路線の維持も非常に厳しい状況です。今後も運行を継続するには、まずはみなさんにご乗車いただくことが大前提となります。感染防止対策には十分取り組んでおりますので、マスクをご着用の上、安心して弊社バスをご利用いただきたいと思います。



## 公共交通利用のメリット

マイカーはそれぞれの都合に合った利用ができる非常に便利な乗り物です。一方で、公共交通を利用することで、以下のようなメリットが考えられます。

体に優しい



健康維持の促進

お財布に優しい



車の維持費が抑えられる

環境に優しい



CO<sub>2</sub>排出の抑制につながる

心に優しい



自動車事故のリスクが軽減される

## 公共交通は地域で育てる

交野市だけでなく、全国的に見ても公共交通機関の維持は、最も難しい問題でありながら、避けては通れない課題です。市では平成31年4月に策定した、「交野市における今後の公共交通（鉄道交通を除く）のあり方について（路線バスの維持継続方策について）」に基づき、地域の誰もが利用できる持続可能で利用しやすい地域公共交通体系の実現に向け、さまざまな取り組みを進めています。

しかしながら、最も効果のある取り組みは、市民のみなさんが「公共交通維持の課題」を「ひとごと」ではなく「自分ごと」としてとらえ、日常から公共交通を利用することです。地域によ

っては、「今の移動手段のメインはマイカーであっても、自分自身、車の事故を起こすリスクを考えるといずれ免許返納も考えなければならない。その時に、今ある公共交通がなくなっているはこの地域に住めなくなってしまうので、今から地域のみんなで未来の話をする必要はある」と考え、地域で公共交通や外出手段の検討を進めているところもあります。

選んで住んでいただいた「住みよいまち 交野」が、未来も住みよいまちであるために、今から公共交通のあり方や必要性について、地域で、そしてみなさんで少し考えてみませんか。